

令和4年度 第3四半期（2022年10月～12月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答＝24 事業所(回答率 96%)

2. 調査対象期間

今期＝2022 年 10 月～12 月

- ・前年同月比＝前年同期(2021 年 10 月～12 月)と比べた今期の状況
- ・前期比＝前期(2022 年 7 月～9 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し＝今期と比べた来期(2023 年 1 月～3 月)の見通し

3. 調査期間 2022 年 12 月 13 日～12 月 26 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合＝景気は上向き

DI値が 0 の場合 ＝景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合＝景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲45.8 で、業種別にみると「小売業」が▲25.0 で最も高く、「建設業」「製造業」が▲39.8 で続いている。

先行きは8.4p悪化の▲54.2 で、業種別では「卸売業」「小売業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2023 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲40.0	↘	▲45.8	↘	▲54.2	↘
建設業	▲40.0	↘	▲39.8	↗	▲60.0	↘
製造業	▲20.0	→	▲39.8	↘	▲40.0	↘
卸売業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲60.0	→
小売業	▲40.0	↘	▲25.0	↗	▲25.0	→
サービス業	▲40.0	↘	▲60.0	↘	▲80.0	↘
(参考)全国全産業	▲23.3	↘	▲18.4	↗	▲23.8	↘
(参考)東北全産業	▲31.0	↘	▲27.2	↗	▲38.5	↘

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

DI = （好転の回答割合）－（悪化の回答割合）



（２）売上高ＤＩ

売上高DIの現況判断は▲41.4 で、業種別にみると「製造業」が▲19.8 で最も高く、「建設業」が▲39.6 で続いている。

先行きは 4.3p 悪化の▲45.7 で、「卸売業」「サービス業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表２ 売上高ＤＩ

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (今回調査)		2023 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲43.8	↘	▲41.4	↗	▲45.7	↘
建設業	▲80.0	↘	▲39.6	↗	▲60.0	↘
製造業	▲40.0	↘	▲19.8	↗	▲40.0	↘
卸売業	▲39.6	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
小売業	▲19.6	↗	▲49.5	↘	▲24.5	↘
サービス業	▲39.8	↘	▲39.8	→	▲39.8	→
(参考)全国全産業	▲5.8	↗	▲0.6	↗	▲14.5	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （増加の回答割合）－（減少の回答割合）

（３）採算ＤＩ

採算DIの現況判断は▲50.0 で、業種別にみると「建設業」が▲20.0 で最も高く、「製造業」が▲39.8 で続いている。

先行きは 4.2p改善の▲45.8 で、「小売業」で改善、「製造業」で悪化となっている。

図表３ 採算ＤＩ

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (今回調査)		2023 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲48.0	↘	▲50.0	↘	▲45.8	↗
建設業	▲40.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
製造業	▲40.0	↘	▲39.8	↗	▲40.0	↘
卸売業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲60.0	→
小売業	▲39.8	↗	▲75.0	↘	▲50.0	↗
サービス業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲27.4	↘	▲24.1	↗	▲28.5	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲12.5 で、業種別にみると「建設業」「小売業」が 0.0 で最も高く、「製造業」が▲19.8 で続いている。

先行きは 8.3p 悪化の▲20.8 で、「卸売業」「小売業」「サービス業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (今回調査)		2023 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲16.0	↘	▲12.5	↗	▲20.8	↘
建設業	0.0	→	0.0	→	▲20.0	↘
製造業	▲40.0	↘	▲19.8	↗	▲40.0	↘
卸売業	0.0	→	▲20.0	↘	▲20.0	→
小売業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
サービス業	▲40.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲17.7	↘	▲16.5	↗	▲18.6	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲75.0 で、業種別にみると「建設業」「サービス業」が▲60.0 で最も高く、「小売業」が▲75.0 で続いている。

先行きは 4.2p 改善の▲70.8 で、「製造業」で改善、その他の業種で横ばいとなっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (今回調査)		2023 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲76.0	↘	▲75.0	↗	▲70.8	↗
建設業	▲80.0	→	▲60.0	↗	▲60.0	→
製造業	▲80.0	→	▲80.0	→	▲60.0	↗
卸売業	▲80.0	↘	▲100.0	↘	▲100.0	→
小売業	▲80.0	↘	▲75.0	↗	▲75.0	→
サービス業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲76.8	↘	▲74.4	↗	▲66.9	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

（６）従業員ＤＩ

従業員DIの現況判断は 0.3 で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは 0.1p 悪化の 0.2 で、「製造業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表 6 従業員ＤＩ

	2022 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2023 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	0.2	→	0.3	↗	0.2	↘
建設業	0.2	↘	0.4	↗	0.4	→
製造業	0.2	→	0.2	→	0.0	↘
卸売業	0.2	↘	0.4	↗	0.4	→
小売業	0.0	→	0.0	→	0.0	→
サービス業	0.6	↗	0.2	↘	0.2	→
(参考)全国全産業	17.4	↗	20.5	↗	20.9	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
人手不足によって除雪要員が少ない。工事を受注しても、配置する技術者がいない。	建設業
仕入上昇分は販売価格転嫁したが、今後の売上に影響するものと不安に思う。景気対策に期待する。	卸売業
半導体不足により新車入荷しないため売上減少。	小売業
売上微増だが、施設維持費が大幅に増えており、非常に厳しい状況。価格見直しも検討している。	サービス業